

NPO法人おんがくの共同作業場設立15年  
認定NPOとして8年  
東日本大震災復興支援コンサート

# 千人の交響曲

マーラー 交響曲第8番 変ホ長調

Gustav Mahler  
Symphonie Nr.8 Es-dur  
"Symphonie der Tausend"



指揮  
ジェフリー・リンク  
Jeffrey Rink



第1ソプラノ  
國光ともこ  
Tomoko Kunimitsu



第2ソプラノ  
朴瑛実  
Terumi Boku



第3ソプラノ  
見角悠代  
Haruyo Mikado



第1アルト  
増田弥生  
Yayoi Masuda



第2アルト  
清水華澄  
Kasumi Shimizu



テノール  
望月哲也  
Tetsuya Mochizuki



バリトン  
大井哲也  
Tetsuya Oi



バス  
青山貴  
Takashi Aoyama

管弦楽  
ブルーメン・フィルハーモニー  
Blumen Philharmonie

オルガン  
新山恵理  
Eri Niiyama

合唱  
新星合唱団、東京オラトリオ研究会、東京ライエンコーア  
小平コーラス・アカデミー、立川コーラス・アカデミー  
(指導:郡司博、渡部智也、内藤裕史)

児童合唱  
特別出演 FCT郡山少年少女合唱団(指導:渡部昌之)  
多摩グリーンロタキッド・クラブ(指導:鈴木直人)  
オーケストラとうたう杜の歌・こども合唱団(指導:津上佳子)  
三鷹中央学園三鷹市立第三小学校合唱団(指導:小林莊子)

2016.5.5 [木・祝] 13:30 ロビー開場  
14:30 開演

東京芸術劇場 コンサートホール(池袋西口)  
S4000円 A3000円

※入場料金のうち1000円を音楽復興支援のために使わせていただきます。  
※学生席・車椅子席(2000円)はおんがくの共同作業場のみでお取り扱いいたします。

- 主催:認定NPO法人おんがくの共同作業場
- チケットお取扱い:  
おんがくの共同作業場(TEL042-522-3943)  
東京芸術劇場ボックスオフィス(TEL03-5391-3010)  
→ホームページからのお申し込みはこちら(<http://gmaweb.net/npo/>)  
※未就学児のご入場はご遠慮ください。  
東京芸術劇場内の託児施設をご利用ください。  
だっこルーム(TEL03-3981-7003)  
※遅れてご来場になるとご入場をお待ちいただくことがあります。

# ウィーン・ハプスブルクの落日に咲いた マーラー渾身の大作

冒頭オルガンが鳴り響くとすぐに大合唱が一斉に「Veni(来たれ!)」と歌いだし、巨大編成のオーケストラと2群の混声合唱、児童合唱、それに8人の独唱者が様々に織りなす大音響の渦の中に巻き込まれてしまいます。その規模と多彩さはそれまでの管弦楽に例がなく空前の大作と言ってもよいのですが、タイトルの『千人の交響曲』はマーラーがつけた名前ではなく初演時の興行主がつけたもので、初演時には実際にオーケストラと合唱、独唱者、それに指揮者マーラーもあわせて1030人によって演奏されました。マーラーがこの曲を完成したのは1907年で、この年、マーラーを取り巻く人間関係や彼自身の体調などがうまくいかなくなり、それまで約10年勤めてきたウィーンの宮廷歌劇場の音楽監督の職を辞します。その後マーラーは『大地の歌』や交響曲第9番を作曲しますが、これらの実演を聴くことなく1911年に他界したため、交響曲第8番はマーラーが自分の耳で聴いた最後の自作交響曲となりました。

この曲は合唱と独唱者がほとんど最初から最後まで歌っていたり、全体が2部構成になっていたりして一見交響曲らしくからぬように見えますが、よく見ると交響曲の4つの楽章に対応する構造が見受けられたり、調性感を逸脱していないことなど伝統的な性格も残しています。一方この曲には劇的な音楽の展開や、色鮮やかな響き、斬新な楽器の用法など、マーラーがこれまで書いた交響曲で試みた様々な要素が楽器と人間の声を対等に扱いながらつめこまれていて、マーラーの作曲技法の集大成であると同時に後期ロマン派的拡大志向の頂点とも呼べる交響曲となっています。交響曲第8番の初演は大成功となりますが、当時は膨張したヨーロッパ帝国主義の様々な矛盾や歪が沸騰し、ウィーンのハプスブルク宮廷が崩壊する第一次世界大戦の開戦に向けて欧州の情勢が大きく動いてゆく時期でした。それは混沌とした今の世界状況にも通じるところのある、行きつくところまで行きついたひとつの文明社会を象徴する出来事であり、音楽作品であったと言えるでしょう。

認定NPO法人おんがくの共同作業場理事  
岡田利英

## 指揮

### ジェフリー・リンク

『今世代最高の指揮者の一人』と賞されるジェフリー・リンクはオペラに対する優れた貢献により、2005年度ヤーコポ・ペーリ賞受賞。06年、ノースウエスト・フロリダ交響楽団に客演したのち、音楽監督に就任している。世界各地に招かれ客演することも多く、日本では東京交響楽団、テレマン室内合奏団、新日本フィル、東京フィルなどと共演。また長期にわたってコーラス・プロムジカ(ボストン)の音楽監督、コンサート・オペラ・ボストン音楽監督を務めている。ヘンデル・ハイドン・ソサイエティでは『第9』『メサイア』などの演奏会を行い、長年音楽監督を務めたニューイングランドフィルは大胆な演奏曲目の選定と20以上の初演を含む新しい音楽への取り組みが認められ、ASCAP(全米作曲・作詞・出版家協会)に表彰され、全米にその存在を知らしめた。2011年には東日本大震災当日に来日し、マーラー『復活』を指揮した。

## 管弦楽

### ブルーメン・フィルハーモニー

1993年8月、指揮者・寺岡清高氏の提唱により1回りのオーケストラとして発足。同年9月の演奏会が好評を呼び、アマチュアとしての良さを生かしつつも、技術・音楽性の両面において一流となることを目指した常設オーケストラとして再スタートした。

現在都内を中心に活動中。様々なオーケストラ・室内楽団体での経験豊かな社会人・学生により成り立っている。これまでに指揮者として、寺岡清高、ゲルハルト・ボッセ、中田延亮、金山隆夫、伴野剛、桑田歩、山田和樹、森口真司、寺本義明、堀伝、河原哲也、ミヒャエル・デイトリッヒ、大森悠、懸田貴嗣、角田鋼亮、武藤英明の各氏らと共演している。第20回特別記念演奏会(2002年)においてブラームス『ドイツ・レクイエム』を、創立20周年を迎えた第40回記念演奏会(2013年)においてベートーヴェン『第九』を、いずれも合唱指揮:郡司博、合唱:東京オラトリオ研究会・新星合唱団との共演により演奏した。これまでに43回を数える定期演奏会の他、依頼演奏を含む11回の特別演奏会、「室内楽の悦楽」などを行っている。